

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第41回 LLW放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2020年8月4日(火) 10時00分～11時40分
2. 場所： Webexソフトを使用してのWeb会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - (出席委員) 高橋(主査), 相澤(副主査), 大畑(幹事), 吉岡, 泉田, 尾崎, 松居, 田中(雄), 田辺, 亀尾, 佐々木, 見上, 三宅, 伴場, 中瀬, 池戸(16名)
 - (委員候補) 平井(1名)
 - (常時参加者) 梅原, 柏木, 宮田, 林^(宏), 竹内, 林^(隆), 脇, 本山, 中野(9名)
 - (常時参加者候補) 副島(1名)
 - (傍聴者) 佐藤, 中田(2名)
4. 配付資料
 - F10Ph2SC41-1 第40回 LLW放射能評価分科会 議事録案
 - F10Ph2SC41-2 人事について
 - F10Ph2SC41-3-1 標準の転載許諾対応に関するメール審議【SC19-19】の結果について(標準委員会資料 SC19-19_添付))
 - F10Ph2SC41-3-2 日本原子力学会 HP 標準書籍発行のお知らせ
(<http://aesj.net/hp/2020/05/25/aesj-sc-f022/>)
 - F10Ph2SC41-4 L1 廃棄体放射能濃度決定方法に係る事業者の規制基準へのエンドース・ニーズについて
 - F10Ph2SC41-参考1 LLW放射能評価分科会(F10Ph2SC)委員名簿
 - F10Ph2SC41-参考2 原子力規制委員会における民間規格の活用について(2018年6月6日 原子力規制委員会)
 - F10Ph2SC41-参考3 中深度処分に係る今後の規制基準の整備に関する事業者ニーズについて(2019年12月17日、第2回意見交換 廃炉等に伴う放射性廃棄物の規制に関する事業者との意見交換、電気事業連合会)
 - F10Ph2SC41-参考4 日本原子力学会 標準委員会 標準策定5か年計画の更新ガイドライン(SG-105 改定1)

5. 議事

(1) 主査挨拶, Web会議における注意事項及び出席委員の確認

高橋主査より, オンライン化は世の中の流れであり, 効率よくやれば審議に集中でき, 開催頻度を上げることができるなどのメリットがあり, ポジティブに考えていただきたい。当面は不都合が生じるかもしれないがご容赦いただきたいとの開会の挨拶があった。

大畑幹事より, Web会議での注意事項について説明があった。また, 開始時点で委員16名中14名の出席があり, 定足数(11名以上)を満足している旨報告があった。

(2) 前回議事録案の確認

前回分科会の議事録案（配布資料 F10Ph2SC41-1）について、大畑幹事より、事前送付してコメントがなかったこと、また、高橋主査より、前回分科会で主査・副主査・幹事の交代があった旨説明があり、コメントなく承認された。

(3) 人事について

大畑幹事より、F10Ph2SC41-2 に基づき、根本委員の退任の報告があり了承された。また、平井氏の委員選任及び副島氏の常時参加者登録について、Webex の Chat 機能を用いて投票を行い、反対意見なく承認された。

(4) ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：

2019(AESJ-SC-F022：2019) の転載許諾対応に関する標準委員会メール審議結果及び同標準の発行について

大畑幹事より、F10Ph2SC41-3-1 及び F10Ph2SC41-3-2 に基づき、ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：2019(AESJ-SC-F022：2019) の転載許諾対応に関して、本年 3 月 11 日～25 日に標準委員会の通信審議による投票があり、投票者 28 名全員賛成（1 名からの修正コメントは反映）で承認されたこと、その後、同標準が 5 月 25 日に発行された旨報告があった。

(5) L1 廃棄体放射能濃度決定方法に係る事業者の規制基準へのエンドース・ニーズについて

大畑幹事より、F10Ph2SC41-参考 2 に基づき、原子力規制委員会における民間規格の活用の考え方、民間規格の技術評価の仕組みについて紹介があった。なお、同資料中の「技術支援機関」の代表的なものとしては、日本原子力研究開発機構の例があるとのことであった。

中瀬委員より、F10Ph2SC41-参考 3 に基づき、昨年 12 月 17 日に開催された「廃炉等に伴う放射性廃棄物の規制に関する原子力規制委員会との第 2 回意見交換会」において、電気事業連合会から L1 廃棄体放射能濃度決定方法に関して早期の議論を要望した旨説明があった。

また、中瀬委員及び柏木常時参加者より、F10Ph2SC41-4 に基づき、L1 廃棄体放射能濃度決定方法に係る事業者の規制基準へのエンドース・ニーズについて説明があった。

主な意見及びやりとりを以下に記す。

(主な意見及びやりとり)

- 昨年 12 月の意見交換会以降、事業者から原子力規制庁に改めての説明は行っていない。(中瀬委員)
- 原子力規制委員会の設立以降、原子力学会の標準で技術評価を受けたものはない。(大畑幹事)
- 本標準が初めてのケースとなるということであり、慎重に対応する必要がある。(高橋主査)
- 理論計算法については、本分科会でこれまで詳細に議論してきており、関係者の合意を得ているところと理解している。(高橋主査)

- 事業者ニーズがあるということであり、事業者のニーズに沿って進めていくことでよいと考える。(相澤副主査)
- L1 廃棄体の製作時期が近づいてきており、時期的にひっ迫している。ここで評価方法が認められていないと後で困ることになると事業者は懸念している。このため、そもそも放射能評価方法が決まっていなくて廃棄体を製作できないと理解。(高橋主査)
- L2L3 廃棄体とは異なり、L1 廃棄体は放射線量が高いため人手作業などができない。このため、L1 廃棄体の製作に入る前に放射能評価方法について規制側のお墨付きを得たいと考えているので、よろしくお願ひしたい。(池戸委員)
- 理論計算法でデータベースからランダムに入力データを作るとあるが、その点について妥当か？(高橋主査)
- 理論計算法では、入力データが決まれば、後は解析コードによる計算のため、この入力データの設定において保守性のあるデータベースを作ることが重要。理論計算法のうち区間推定法では、保守性が異なるいくつかの設定手法(分布設定、ランダム抽出など)を用意しており、この点について原子力規制庁の理解を得ることが肝要と考えている。(柏木常時参加者)
- 分科会において、これまでも議論しているところであるが、その点をしっかりまとめてほしい。(高橋主査)
- 事業者提案のニーズは理解できるし、時宜にも適っていると考える。原子力学会として初めてのエンドースということであり、手続きを整備する必要もあるのではないか。(高橋主査)
- 機械学会、電気協会と同様、原子力学会も技術評価対応要領を制定していただき、態勢を整えていただく必要がある旨、電気事業連合会から原子力学会事務局に要望すると聞いている。(大畑幹事)
- 本日、技術評価・エンドースについて反対のご意見はなかったと理解。引き続き、事業者として検討を進めていくのでよろしくお願ひしたい。(中瀬委員)
- 本件を進めていく方向で検討をお願ひしたい。(高橋主査)

(6) 2021 年度標準策定 5 年計画の策定について(分科会所掌標準の新規制定及び定期改定等の要否検討を含む)

大畑幹事より、F10Ph2SC41-参考 4 に基づき、原子力学会標準策定 5 年計画の更新手順について説明があった。次回会合において、2021 年度標準策定 5 年計画の策定に関する検討状況を報告予定。

(7) その他

大畑幹事より、中深度処分放射能評価標準の講習会については、当初、5 月中旬の開催を予定していたが、新型コロナウイルスへの対応で延期となったこと。その後、原子力学会事務局が Web で講習会を開催する方針を決め、本標準については、最速で 10 月後半に開催できる見通しである旨報告があった。開催日程が確定次第、分科会関係者に連絡し、関係者への講習会参加のお声掛けを依頼することとした。

次回会合の開催日については、事業者側の中深度処分放射能評価標準の技術評価に関する今後の検討進捗を踏まえて、別途、幹事より提案されることとなった。

なお、次回会合では、Chat 機能を使って出欠確認を行うことを検討するなど、より効率的な議事運営を目指すこととなった。

以 上